

京都市立芸術大学音楽学部同窓会

真声会

会報 第55号

2012年11月10日発行



音楽学部創設 60 周年を記念し、座談会を開きました



京都市立芸術大学音楽学部は、今年、創設 60 周年を迎えました。12 月 2 日には大学、真声会、そして教育後援会の主催による 60 周年記念式典が、京都市立京都堀川音楽高等学校のホールで行われます。（詳しくは 7 ページをご覧ください）それに先立ち、音楽学部の教員の方 11 名と、真声会の役員 7 名による座談会を 9 月 25 日に開催しました。学校法人化による影響、これからの展望など、興味深い内容の座談会となりました。先生方の熱い思いを出来るだけ皆様にそのままお伝えしたいのですが、文字数が多いため、紙面の都合上、今回はその一部を掲載し、全文はホームページ (<http://www.shinseikai-kcua.net/>) に掲載致します。また後日、座談会の全文を小冊子にまとめてご希望の方にお届けする予定です。ご希望の方はメールまたはハガキで真声会本部までお申し込み下さい。

京都市立芸術大学音楽学部創設 60 周年記念 音楽学部教員と学部同窓会《真声会》役員との座談会

2012 年 9 月 25 日（火）午後 6 時 30 分～8 時 30 分
京都市立芸術大学 大学会館内にて

出席者：（敬称略）

山本毅音楽学部長（管・打楽）

前田守一研究科長（作曲）

砂原悟（ピアノ・准教授）

増井信貴（指揮・教授）

呉信一（トロンボーン・教授）

津崎実（音楽学・教授）

大嶋義実（フルート・教授）

小濱妙美（声楽・准教授）

中村典子（作曲・准教授）

豊嶋泰嗣（ヴァイオリン・准教授）

上村昇（チェロ・教授）



大村益雄（真声会会長）

大西多恵子（副会長・元非常勤講師）

金森重裕（理事）

三井ツヤ子（理事・名誉教授）

朴実（編集委員長）

青谷哲也（運営委員）

中村典子（学内アドヴァイザー・リエゾン）

朴：本日はお忙しいところ有難うございます。真声会会報 5 5 号（1 1 月発行）に掲載する為に、創立 6 0 周年を迎え、先生方と真声会との座談会を特集企画しました。法人化に基づく音楽学部 6 0 周年の展望（ヴィジョン）について、先生方と座談会をして会報に掲載したいと思います。1 期の大村さん始め古い方は昔の事を良くご存じであるので、最初に簡単に振り返りながら、主な話はこれからの展望をお聞かせ頂きたいと思います。まず、大村会長から一言お願いします。

大村：今日は座談会が持てまして有難うございます。大学側から先生方沢山出ていただいて本当に有難うございます。6 0 周年記念は、人間で言えば還暦のようなものです。6 0 周年とか 5 0 周年とか 1 0 0 周年と云うのは、産んでくれたり育ててくれた人にお礼の意味で祝賀すると考えられます。私は第一期生ですが、音楽短期大学が出来る前に、新聞でも凄く騒がれまして、その時に懂れて入った一人です。その当時の事で非常に苦勞された方は沢山いらっしゃいますが、簡単に資料を作って頂いたので、あとでご覧になって下さい。むしろ今日は、京都芸大が法人化されて、これからどういうヴィジョンでもって将来發展をしていくかということ、卒業生の方からも現役の先生方からも述べて頂いて、会報を読んだ方がこういう風に進んでいくのだなと云う事が判るように、最終的に記事にまとめてほしいと思います。忌憚のない話を自由にして頂きながら、まとめる方は上手くまとめて頂ければ、と云うような会合を持てればいいのではないかと思います。よろしく願ひします。

朴：中村さんの準備された 1 0 0 年史（1 2 0 年、1 3 0 年の資料もあります）の資料コピーをお配りします。学部長の方から何か一言お願いします。

山本：将来ヴィジョンに関して、今はどのような将来ヴィジョンを描いたらよいのかを模索して苦闘している段階であると私は思っています。というのは本当に社会の状況が変わってきています。先日ある財団の奨学生の状況を調べていたのですが、かつては奨学金を貰って、勉強して、コンクールとかに通ったら、世の中に出て働くということが普通のコースだったと思うのですが、今は奨学金をいただく為には既に国際コンクールに通ってなければという状況になりつつあります。そこの財団で出て来ている奨学生のリストを見ますと、殆ど国際コンクールでは上位入賞もしくは、国内の音楽コンクールの一位の人ばかりという状況です。見方を変えますと、物凄く上手で国際コンクールに通るような人でも、仕事が無いわけです。まだまだ勉強しないと仕事が無い状況です。

京都芸大も含めて日本の音楽大学は、いい演奏ができる

人、いい曲を書ける人を一生懸命育ててきたと思いますが、上手に弾けるようになったら仕事があるのかと云うと、それだけでは仕事は無いよという状況になってきています。一方そういう状況の中でコンクール歴などなくてもその時代をしぶとく生き残っていく人もあり、これからは単に上手な人を育てるのではなくて、（もちろん上手になるのは当然で優れた音楽家を目指すのは当然ですが）その研究をし、勉強した成果をどうやって社会に発信してゆくのか、つまりどうやって社会に役に立てるのかという視点が必要です。社会の中で役立っていけば、つまり必要な人間であれば、仕事があるわけです。いくら上手になっても社会が必要としてくれなければ仕事は無いわけです。

私は音楽は絶対人間に必要であると思っています。音楽の必要性、有益性をしっかりと世に発信し、自分が社会に貢献しうる人間であることを提示して行くことができる人、そういう人を育ててゆかないと、もう大学は持たないのではないかと思います。その中で自分達ははどうしていったらよいのかと云う事を真剣に考えなければならない時期に来ていると思います。

おそらく、先生方お一人おひとりがその事を考えてくださっていると思いますので、それをこれから大学としてどういう風にやっていくのか、良い音楽家を育てるのはもちろん、その音楽家たちにどのように社会に貢献してゆくのか、という目を持たせるのがこれからの勝負になってゆくと思います。

そういう面でこの 60 周年という時を機会に考えようよと云うところに来ていると思っております。そういう面で、卒業生の方々はこの激動の社会をしぶとく生き残って来て下さった方が殆どであると思いますので、良い意見交換が出来たらと考えております。

朴：できればお一人おひとりにご意見をお聞かせ頂けたらと思います。ご自由にこれからの音楽学部がどう發展してゆくのか、ヴィジョンとか展望ありましたら・・・同窓生の上村先生、何期生でしょうか？

上村：2 0 期生です。入学は 4 年制になって、たしか 3 年目だったと記憶しています。6 0 周年が人間という還暦にあたるすると、またゼロに戻るというか、原点を見直す時期なのかなと考えています。

私が目標としていることは、必ずしも大器でなくても、晩成型の音楽家を育てるということです。例えばコンクールで華々しく賞をとっても、生涯音楽を続けている人ばかりでもなく、しぶとく生き残っていける人の方がむしろ少ないのではないかと思います。パッと世に出てパッと消えていくのではなく、長い時間をかけて積み上げていくことの大切さを、特にここ数年強く感じるようになりました。それと同時に、これまで私は自分の指導した人たちが、次

の世代にきちんとした技術や音楽の基礎を伝えることが出来る能力を身につけて貰うよう心がけてきたつもりです。すでに私の同級生や、もうすこし下の学年の卒業生の子どもさん達も、京芸で学び巣立っていっています。地道に次の世代を育てていくことが、こうした循環を生み、未来の京芸につながる一つの道かと考えています。

今年は様々な事業が予定されていますが、真声会からは経済的にも色々と支援いただき感謝しています。我々教員も一同力を合わせて各イベントを成功させたいと思います。

豊嶋：ここにきてまだ日が浅いのですが、こちら（1 0 0 年史のコピー）を見せていただいて、園田先生とか岩淵先生とか、僕も影響を受けた方々がたくさんいらっしゃる所に関われることはすごく有難いことで、自分のクラスからまだ数人しか卒業生が出ていないので、これからどう云う事が出来るかは未知ですけども、演奏家全員が世の中で生き残っていくことは本当に難しい事であると思います。けれど、一方で教育者としてそれを意識してきたわけではありませんが、思い起こせば自分の先生だったり、岩淵先生や園田先生だったりを思いかえて、今教えている生徒がまた教えているという循環が出来れば、またすそ野が広がると思います。今日も教授会で感じていましたが、音楽教室の人数が多いが教える人が少ないという事が課題になっているところです。音楽の卒業生がそういうところを手伝ってする事が出来る環境を作ればいいですし、音楽教室、高校、大学があって、もっと有機的に行けば何年か後には花が咲くのでは、地道な時間をかけてする事が必要だと思ひます。

呉：学部長やお二人の先生のお話はもっともだと思います。話は変わりますが、法人化によるメリットになるかどうかわかりませんが、私は本当に絞って絞って管・打楽専攻の将来の事を考えています。

野球では小学生からリトルリーグに入り練習してもなかなか甲子園に出場できませんが、吹奏楽では小学校 4 年生から金管バンドを始めても、その後中学、高校、大学、一般、職場と活躍する場は多く、吹奏楽人口は野球に比べ、4 倍、5 倍それ以上の人口がいると思います。吹奏楽の人口は計り知れませんが、実は京都芸大は吹奏楽がありません。また、過去にはサクソ科があったようですが、現在はありません。関西の国公立の音楽大学ではサクソ専攻はありませんので、皆私学に行くことになります。一方、東京藝大、愛知芸大はサクソ専攻がありますので、皆そっちに流れてしまう。従って、関西圏の中では京芸が専攻設置に是非取り組んでもらいたいといつも言われているのが実情です。サクソ・ユーフォニアム専攻を設置すると吹奏楽が出来ます。現在、吹奏楽の演奏会は私学でもどこの

大学でも超満員の状態なのです。京芸もこの 9 月に増井先生が尽力され京都コンサートホールで秋山先生の指揮による第 2 回の関西 8 大学合同演奏会を行い、素晴らしい演奏会でお客さんもりピーターが増えています。このように、オーケストラはエネルギーにやっています。吹奏楽はオーケストラとは演奏スタイルや音の構成が違いますから、早く吹奏楽の演奏会が出来ればうれしいなと思っています。法人化されたことにより、新しく生まれるだろう吹奏楽科によってブラスバンドを愛する子供達から大人、勿論市民の方にも楽しんでいただけるようになることを期待しています。また同時に、ハープ科、オルガン科、チェンバロ科等の室内楽も増やし、京芸・音楽学部が大きく膨らんでいくようにしたいと考えています。

山本：吹奏楽について補足ですが、吹奏楽分野の指導者を育てれば、社会がもっと変わってゆくのではないかと思います。吹奏楽の愛好家たちはアマチュアのプレーヤーであり同時に聞き手である。これは他の分野ではあまりなく、吹奏楽で顕著な傾向であり、将来的に音楽家の働き場が増えることにつながると思います。

朴：音楽高校の生徒で、何か月か前の演奏会でギターの演奏がありました。音楽高校でギターもやっているようですね。ここは無いですね。

山本：中期目標の中で、現在無い楽器（サクソ・ユーフォニアム等）の拡充を考えていこうとしていますが、予算措置が必要です。京都市がどこまで決断してくれるのかにかかっています。市にずっと訴え続けていますが、いつ実現できるのかはわかりません。

大嶋：そういう意味では、音楽大学としては、まだ完成していないといえます。東京藝大は古楽科もあり世界的な潮流のピリオド楽器を教えているのに、それもできていません。また、京都市があんなに良いパイプオルガンを持っているのに、教える専攻はありません。また、合唱指導者を養成するコースも無いなど、伝統的な音楽学校にはあるべきものが足りてないので、そこをやるべきです。

朴：法人化になって、今までとどう変わるのですか？



山本：最大の違いは、大学独自の意思決定が出来るという事です。もちろん予算を伴うものは京都市が出すと言ってくれないので、独自にやるなら寄付を集めるとかしなければなりません。一方で、学費を上げるといいう事は簡単にはできません。ほとんどその可能性は無いと思わざるを得ません。よって、予算を伴うことを新規にするのはすごく難しい。しかし今あるお金を組み替えて、何かをやる、寄付を集めて何かやるということは、知恵出せば出来るという事で、自分達で意思決定が出来るようになった。完全ではないにしても、今までより遥かに自由に意思決定が出来るようになったことは大きいと言えます。

朴：議会の承認はいらなくなったのですか？

山本：議会というか、京都市の承認は必要です。しかし、今までは京都市直営ですから、細部にいたるまで全てが京都市の O K が出るまで京芸の中では動けなかったのですが、今は大分違います。自由度が高まったわけです。例えばチラシ一つ出すにしても、3 月末の予算が確定するまでは、4 月 1 日以降のものは規則上は出してはいけなかった。4 月 1 日以降の演奏会のチラシは、4 月 1 日以降しか、本当は出してはいけなかったのです。もちろんそんなことをしているわけにはいかないのでフライングで出していたのですが、苦しい状況だったわけです。京響も同じく苦しんでいましたが法人化しました。それに続いて我々も法人化しました。賛否両論でしたが、京都市の決断で踏み切ることになったわけです。

一方で、法人化と云うのは物凄く危険なものでもあります。下手をするとこけてしまう事もあり得ます。しかしそれをチャンスとみて、打って出ようと思えば色々な事が可能になる。それによって我々は以前よりはるかに大きい自由を手にしたけれど、それをどう使っていくのかがまだわかっていない状況です。これから勉強です。

物を買うにしても、かつては消耗品と備品を厳密に分けていたのですが今はかなり自由で、逆にまだ我々自身が面食らっている状況です。繰り返しですが、最大の違いは、今までよりは自由意思で決定が出来るようになったことです。備品にしても今までは京都芸大の備品は一つも無く、全てが京都市の持ち物だったが、今は京都芸大の名前で物が購入できるようになり、楽器を買うにも京都芸大として買う事が出来ます。それが大きな違いです。



津崎：やるかやらないは別として、法人化したことで大学が営利事業をやっても良いのです。公立大学の使命からすると、学生から暴利を食ってはいけませんが、学生の教育を目指して、何かのお金を取ることが出来るようになりました。今までは京都市の機関という制約上これが出来なかった。上手く成功すれば大学のお金として、大学がそのお金を持つと、京都市の年度予算に縛られない。例えばチラシを刷るのであっても、「予算が決まる前ですからできません」のような堅苦しい事から解放して運営して行くことは可能になり、自己采配の範囲は確実に広がります。ただ、そのための武装も必要になり、それだけのコストを組織として払えるかどうか微妙かなと、それを管理する人達をそろえなければなりません。それはそれなりに人件費が掛かるので、それだけの用意をしていかなければなりません。独自に儲けるとしても、そんなに儲けられるものでもないと思います。

今のところの職員は京都市からの出向者が大半で商売の才覚のある人はなかなか見つからないので、才覚のある人をお金を払って雇うかどうかと云う事は大学の決定なので何とも言えませんが、そういうことで自由度は少なくとも出て来ていると云えます。

増井：法人化になって、直営の時は出来なかったことが出来るようになった事は良いことです。しかし、いままであったものを変えてはいけけないものもあると思います。専攻を増やすのは良いことですが、少数精鋭は我々にとっても大きなメリットで大切なことと思っています。私学はたくさんの学生を受け入れなければいけませんから少数精鋭はありません。法人化して少々自由になって、楽器の専攻を増やすのも良いのですが、現在の少数精鋭は絶対守っていかなければいけないことですね。

授業料については必要不可欠な値上げはあるかもしれませんが、私学が徴収している施設拡充費とか特に必要と思われない費用については、我々は絶対に抑えていかなければなりません。また、私学は設備の充実や食堂が素晴らしいとかで、その魅力で来る学生もいるかもしれませんが、それより本質が大事なので、法人化になっても私学化する事は絶対避けるべきだと思います。

それから、京都芸大の知名度についてですが、特に関東に於いては京都芸大のことはあまり知られていません。知っていたにしても詳しくはありません。知られていない事は、学校として本当に損です。そこで僕は東京藝大との交流演奏会を設けたり、関西の 8 大学を集めてのオーケストラコンサートを開催したりして、京芸の名前を全国的に広めて行く取り組みをしています。これは本当に大事な事だと思います。知られていなければどうしようもない時があるんです。京都芸大のことを短大であるとか男子学生がいないとか言われているのを聞くと、皆さんが思ってい

る以上に京都芸大は知られていないことを感じます。

津崎：京都芸大を知らない逸話がありまして、私の家内は国立音大出身ですが、新潟出身です。音大系を選ぶにあたって京都芸大を受験先として見てなかった。また、私が京都芸大に移ることになって、大学の名前を言ったら、そんな大学あったの？と云われました。公立大学なので学費も安いにも関わらず、見えていなかった。増井先生のフォローと云うか・・・！

砂原：小濱先生と同じ二年目になります。京芸に来て間もないので、まだ事情が分からないことも多々あり、これまで先生方がお話しされたご意見に比べると私の話は青臭いかも知れませんが。ここに来る前は私立の音大で教えておりました。ピアノの分野に限って言えば、全員が演奏家を目指して行くのが難しい状況にあったと思います。人数が多いだけでなく、学生の質が非常に多様化しています。それに比べると先ほど増井先生がおっしゃったように、京都芸大は少数精鋭で、全員が同じ方向を向いて勉強しているのは恵まれていると思います。私も焦点を絞って集中して教える事ができるし、やりがいがあると思います。やはり少数精鋭のところはぜひ引き継いでいってもらいたいと思います。

また美術学部と音楽学部が一緒になってできることが増えればいいなと思います。ここの美術学部には特に古い歴史があります。音楽と美術の連携という話は、ちよくちよく出る話ではあるのですが、言うは易しで、実際にはなかなか折り合う事や一緒にできることを見つけることが難しいと思うのです。しかし、いまコンピュータの分野ですとか、作曲の分野ですとか、とりわけ変化の激しい分野があります。伝統的なものとかこういう新しいもののコラボレーションの可能性がこれからはもっと拡がってくるのではないかと思います。具体的なアイデアはまだありませんが、法人化をきっかけにこう云った取組をもっと積極的に促進していけたらと思います。

伝音（日本伝統音楽研究センター）との連携も重要ですね。たしかに日本の音楽大学は西洋の音楽を取り上げ、教えてきた歴史があります。しかしこれからは日本の伝統音楽と西洋音楽の連携がより重要な課題になるのではないのでしょうか。そういうチャンスも併せて探っていけないかと。青臭い考えですが、折りに触れチャンスをうかがっていきたいと思います。

山本：今の砂原先生のご発言に関連しますが、大学院の方に日本の伝統音楽を研究する専攻を作ろうという事で、今準備を進めています。もう十中八九出来るであろうというところまでこぎ着けてきています。それは前田先生もものすごく頑張って頂いたのですが、伝統音楽研究センターと

の協力関係で実現にこぎ着けました。京都にある音楽大学としての立ち位置を模索しながら足元を固めているところで、今後大きく発展してゆくのではないかと思います。

前田：長い事ここに勤めています。この学校で長いこと居て、ここが良くないからこうしようとか、こうやったらもっと良くなるかな、などは思いません。確かに大学があまり知られていないかもしれません。しかしこの大学の方向性は間違っていないと思います。あまりうまく行かない時もあります、広げてゆくにも、良いものを失わないようにすることで、良いものはきちっとやる、基礎的なこと、京都芸大が持っている素晴らしいものを失わないように。欲張ってやって行くと、何か失うかもしれないと思うので、時間をかけてやってゆければと思います。例えて言えば、徳川家康のように悠々と待ちつつも、時期を見極めどう勝負するか、どっしり構えている位で良いと思います。

ただ世の中の状況や経済状況とはそぐわないことも確かにあると思うので、それには対処してゆく必要があります。が、これは学校の運営とか経営に係わることなので、これとは別にして、研究や教育の面で自信と誇りを持って、学生達と京都芸大を盛り上げて行き、6 0 周年を機に再確認して行けば良いのではないかと思います。また特別なことを企画することも悪くはないですが、良いアイデアをお持ちの方は学内外にたくさんおられると思いますので、それを適当な時期、良い時期に具体化して行けば、京都芸大はある意味安泰かと思っています。ただ世の中は確かに変わってきていますから、どのように運営・経営して行くか、敏感に対応していかなければならないでしょう。

小濱：昨年帰国し、いきなりそれまでの歌手生活とは全く真逆の教職に就きました。私が生徒を教えるという立場に就きたいと思ったのは、恩師シュヴァルツコプフが他界したことがきっかけでした。それまでは舞台をこなす日々を追われ、自分が歌う事で精一杯でした。一人でも生徒を教えることは責任のあることですし、自分が自分で許せる状態にならないと教える事は出来ないと考えていました。でも、やっとそういう時期が訪れ、日本に帰ろうと思い始めた頃、私は東京藝大出身ですが、実家の香川と東京との間に「京都市立芸術大学」があることを思い出し、心引かれたのでした。実は私の又従兄弟もここ京都芸大の声楽科出身ですし、故郷・坂出高校音楽科からも何人もの卒業生が出ているようです。京都芸大は少人数体制、とてもほっこりアットホームでビッグファミリーのようだと以前から聞いていました。学生間もそうですし、それ以上に先生方が皆個性的で、何かやる時には一致団結し実現させる！そんな温かいハートの塊であると聞いていましたので、自分と相通ずるものを感じました。音楽は勿論上手ければ上手いに越した事はないけれど、人間形成の上に於いて、例えば

…歌っていたらその人の全て…生き様や歴史、その人が育った環境、その人が教わった先生、その人が出逢った人達がピュアに見えて来ます。京都芸大に准教授として受け入れていただいた時に、ひょっとしたらここが私にとって第二の故郷になるのではないかしらと思ったことも事実です。

生徒達に初めて会った時の感動は今でも忘れられせん。素直で賢いだけでなく自然体…何だか自分の学生時代を懐かしく思い出しました。東京だと毎日の生活のリズムに追われ、時間との闘いになりがちです。それがここ京都芸大では普段の生活空間がゆったりしており、その中で日々努力すること、日々新しい発見をすること等が自然に出来ているのではないかと感じました。今年から法人化という事で、先生方がいろいろお話下さいましたが、私は着任してまだ二年目なので、今後どういう風に動いていくのが実際のところまだあまり見えていませんし、果たして私に何が出来るのかもまだよくわかりません。ただ、微力であってもお役に立ちたい気持ちでいっぱいです。今の時代は以前と違って、飛行機に乗ればすぐ海外に行けるし、コンクールを受けたいと思えばすぐいくつもコンクールが見つかるし、本当に便利な世の中になりました。やる気を出し、やろうと思えばいくらでも突き進めるのですが、今、生徒に考えて欲しいのは、自分が一体何を欲しているのかを素直に自問自答することです。音楽に翔る情熱は勿論一番大切かもしれませんが、プラス人間性を磨くこと…それは音楽にとってイコール = の条件だと思うのです。シュ

座談会はこのあと、真声会役員、中村典子准教授のお話へと続きますが、紙面の都合上ここまでとします。全文は最初に述べましたように、ホームページ、または、小冊子でご覧下さいますようお願いします。

音楽学部創設 6 0 周年記念事業一覧

京都市立芸術大学音楽学部の前身である「京都市立音楽短期大学」が、昭和 27(1952) 年 4 月に我が国初の公立音楽大学として設置されてから今年で 60 年。創設時の運営にご尽力いただいた方々をはじめ、市民の皆様すべてに感謝の意を表するとともに、今後、本学の音楽教育の成熟と発展の一助となるよう「音楽学部創設 60 周年記念事業」が行われています。この会報が届く頃には、プログラムの 1 と 2 は既に終了しておりますが、それ以降のプログラムには是非皆様のご来聴・ご参加をお待ちしております。**演奏会の催しは全て無料です**。是非ご来場ください。

- 1京都市立芸術大学・東京藝術大学 交流演奏会
平成 24 年 11 月 1 日 (木) 午後 6 時 30 分開演 (開場 : 午後 6 時) 東京藝術大学 奏楽堂 入場無料
- 2プロのオペラ座専属合唱団員有志による「アンサンブルのためのワークショップ」
平成 24 年 11 月 2 日 (金) 午後 6 時開演 京都コンサートホール (小ホールムラタ) 入場無料
- 3音楽学部 60 周年記念 国際交流演奏会
平成 24 年 11 月 30 日 (金) 午後 6 時 30 分開演 (開場 : 午後 6 時) 京都文化博物館別館ホール 入場無料
- 4京都市立芸術大学音楽学部 60 周年記念式典 式典の後、レセプション (要申込 会費制)
平成 24 年 12 月 2 日 (日) 午後 3 時 30 分 ~ 京都堀川音楽高校ホール (要出席葉書) 入場無料
- 5音楽学部 60 周年記念 第 142 回定期演奏会
平成 24 年 12 月 9 日 (日) 午後 2 時開演 (開場 : 午後 1 時) 京都コンサートホール (大ホール) 入場無料 (会員証・会報内入場券)

ヴァルツコプフ、相次いで今年になって畑中良輔先生…私のかけがえのない二人の恩師が他界され、相談にのっていただける先生がいなくなりました。あまりのショックで心淋しい日々が続きましたが、それもようやく吹っ切れたような気がしています。京都芸大が 6 0 周年を無事迎え、今後は今教えている生徒達がやがては親になり、またその子供達がこの京都芸大で学ぶ…順番ですね。後世の人に教えるのは全て財産 - その財産を引き継いでいかなければならないと強く思います。

私は本校の < 大学院オペラ > がとても素晴らしいという事を以前から聞いておりました。着任して昨冬、そのオペラの本番を迎えたのですが、全くその通り ! プロにも負けない出来だと感心しました。それぞれが精一杯努力し、協力し合い、一生懸命作り上げた感動的な舞台に心打たれました。我々プロの立場にあってもひとつひとつの公演は真剣勝負、舞台は神聖な場所です。若者 = 生徒達の可能性は無限大だと信じています。生徒達にも常に「初心忘れず」精神で高みを目指し、成長して欲しいです。また、先程の教授会で話に出ました本校の < 大学院オペラ > を、京都芸大の “ 顔 ” として今後もアピールし、益々発展していくことを心から願っています !



❖

60 周年記念式典とレセプションのご案内

❖

秋たけなわ、芸術の秋です。みなさまお変わりございませんでしょうか。

音楽学部 60 周年という大きな節目の年に居合せた幸福感と共に大役を仰せつかった責任の重さを感じております。

みなさま方のお手元に「60 周年記念式典とレセプションのご案内」をお届けしております。ご確認の上、出欠のお返事をお忘れなき様お願い致します。

12 月 2 日 (日) 15 : 30 より、京都市立京都堀川音楽高校ホールにて式典と記念講演、記念演奏が行われます。(入場無料)

18 : 30 よりは隣接の全日空ホテル 朱雀の間にてレセプションがございます。 ¥ 7,000。

1 期から 61 期 (学生会員) までの真声会員が一堂に会し、60 周年を祝いたいと思います。

リレートークあり、ホテル心尽くしの料理を味わいながら音楽談義に花を咲かせ、大いに盛り上りましょう。

みなさま方のご出席を心よりお待ちしております。

実行委員長 松本真理子 (15 期打楽器)

京都市立芸術大学音楽学部創設 60 周年記念事業のための 第 1 回ご寄付に感謝し、第 2 回目の寄付 (最終回) に 更なる多くの会員のご協力をお願い申し上げます !

前回第 54 号会報で、音楽学部創設 60 周年記念事業のための第 1 回ご寄付を皆様に呼びかけましたところ、2012 年 9 月 30 日現在までに、149 名、総額 861,000 円 (郵便振込手数料 15,920 円) のご寄付を、多くの会員諸氏から賜りました。誠に有難うございました。今年から京都市立芸術大学は法人化され、60 周年を迎える音楽学部の学生にとっても非常に有意義な記念事業に巡り合えることになりました。2012 年 11 月から 12 月にかけて、「60 周年記念事業一覧」のように、東京及び京都にて、本学学生、本学教員及び卒業生、更には、国内交流、国際交流、による記念公演が開催されております。12 月 2 日には京都市内にてこの記念事業を象徴する式典も開催されます。より多くの会員の皆様にこの記念事業の主旨をご理解頂き、そして記念事業へのご参加を賜りますようお願い致します。また、この記念事業の成功と今後の大学の発展のために、第 2 回目 (最終回) の「60 周年寄付」を賜りたく、ここに赤色の郵便振込用紙 (振込手数料無し) を同封致しますので、更なるご協力を 頂きますようお願い申し上げます。

(寄付者一覧・敬称略)						60 周年記念事業推進委員					
1 期 堀田勇	5 期 吉富真弓	10 期 山田晏子	17 期 佐藤敏子	26 期 大嶋義実	45 期 定金麻衣子						
1 期 大村益雄	5 期 園田たまよ	10 期 堀木かをる	18 期 定塚倫代	26 期 片岡恭子	49 期 正岡文						
1 期 新井省吾	5 期 大村禮子	11 期 長谷敬子	19 期 中島百合子	28 期 黒崎真琴	49 期 井上絵里子						
1 期 鈴木安子	6 期 大幸若菜	11 期 小林浩子	19 期 伊原道代	28 期 西浦嘉晃	49 期 久野泰典						
1 期 西尾満喜子	6 期 多鹿千恵子	11 期 吾孫子鳩子	19 期 樋上由紀子	29 期 大畑博貴	51 期 坂本友理						
1 期 吉田富美子	6 期 田村直子	12 期 伊吹元子	19 期 村田関子	29 期 上野順子	51 期 住本紗恵						
1 期 西田深春	6 期 金森重裕	12 期 大西博子	19 期 杉中富久子	29 期 駒田さよこ	52 期 養田なつき						
1 期 中村スミ子	6 期 杉野昌子	13 期 足立美和	19 期 杉中博	30 期 佐藤元昭	52 期 木田佳余						
1 期 本田喜美	6 期 白石由紀子	13 期 藤井高子	20 期 西村孝子	31 期 康 瑛	53 期 藁澤夏海						
1 期 齋藤真理子	7 期 坂田蓉子	13 期 松村千恵子	20 期 岡大寿	32 期 高橋知子	53 期 朱雀真由子						
1 期 斎藤栄子	7 期 尾上玲子	15 期 藤田叔子	20 期 小山佳子	33 期 木田志津加	54 期 朴梨恵						
2 期 小林芳子	7 期 安野玲子	15 期 蔵田由美子	20 期 酒井豊子	33 期 中川亜佐樹	54 期 中村淳二						
3 期 藤原三千代	8 期 山村紀久子	15 期 田中径子	20 期 高谷満廣	34 期 山上友佳子	55 期 木下敦子						
3 期 伊谷和子	8 期 田北光子	15 期 四方真理子	20 期 村上晃一	35 期 土居知子	55 期 大谷加奈						
3 期 横山散子	8 期 ヒールシャー恵子	15 期 松本真理子	20 期 長畑真知子	35 期 加藤千恵子	56 期 北端祥人						
3 期 服部玲子	8 期 西村靖子	15 期 青谷哲也	20 期 伊原昇寿	36 期 梅井香織	56 期 吉田円香						
3 期 吉永好子	8 期 西垣淳子	15 期 小谷美智子	20 期 匿名	36 期 蒲原尚美	56 期 川端賢一						
4 期 三村光子	8 期 田中洋子	16 期 巖水陽子	21 期 井出智子	37 期 加藤惠理	56 期 下野依子						
4 期 西田千鶴	9 期 辻有紀子	16 期 阪田誠康	21 期 塚田真知子	37 期 宮武晶子	56 期 山本梓						
4 期 石崎靖子	9 期 根来順子	16 期 三宅マチ	21 期 平野暁子	37 期 武貞明子	56 期 島納仁美						
4 期 石堂英美	10 期 木下幸子	16 期 奥村隆雄	22 期 村上久仁子	38 期 榎幸子	56 期 堀内友貴						
4 期 山本輝子	10 期 石尾光子	16 期 池田美也子	24 期 松井和代	40 期 井上隆平	57 期 久保綾香						
4 期 中村英美子	10 期 大西多恵子	16 期 大家昭子	25 期 佐藤薫	40 期 今津陽子	57 期 日暮霞						
4 期 中島滋子	10 期 大鋸洋子	16 期 三井ツヤ子	26 期 糸田陽子	42 期 糸田陽子	57 期 水野万裕里						
5 期 山本家寛	10 期 小室彰子	17 期 有川長吉	26 期 大津佳子	43 期 松村桃子	(2012 年 9 月 30 日現在)						



《会員だより》

語りとピアノのコラボレーション

20 期ピアノ 川勝 一摘

9 月吉日、アルティにて真声会京都支部による第 29 回プロムナードコンサートに出演させて頂きました。語り〈西村孝子 20 期〉とピアノ〈川勝〉とのコラボレーションでの演奏でした。私自身の拙い創作童話「櫨の樹」を基にしたものですが、この話に登場する櫨の樹は記憶が不確かではありますが、昭和 40 年代頃までは実存し、城下町である南丹市園部町の城跡の丘に樹齡何百年という豊饒（かくしゃく）とした趣で人々に親しまれていました。古いものが悠々と息づく風情のあるこの町を子供心にも深く愛していました。しかし現在、この町は様変わりし、私が通っていた幼稚園、小・中学校はそれぞれ新築移転され、さらに道路拡張のため、わが成長期を過ごした家並みまですべて消失してしまいました。そして子どもの頃の私たちの良き師、良き友であった櫨の樹は、他の古木と共に根こそぎ人の手により伐採されてしまいました。そののち私は京都の岡崎にあった音高、京芸へと進学しますが、それらの学舎（まなびや）はすでにこの世にはありません。振り返れ

29 期ピアノ 上野 順子

駅前の大型スーパー跡地に兵庫県が音楽ホールを建て、その芸術監督に、かつて伴奏した同級生が就任する、という驚きの展開を予想だにせず、30 年住み慣れた京都府長岡京市から西宮市に引っ越した矢先、阪神大震災に遭遇。随分心細い思いもしましたが、その後、一人息子の成長過程で袖すり合う多様な繋がりから、地元保育園に『手芸愛好家』として講師に招かれるなど、真声会員としては多少風変わりな経験も重ねつつ、とりあえず今日もピアノの前に座っています。始まりはピンチヒッターだった立命館大学メンネルコール（男声合唱団）、関西学院大学混声合唱団エゴラド（ドラ声の逆さ読み）の伴奏も、27 年、14 年を数え、今やすっかり我が子年代の大学生と、年 4 回、舞台に立たせてもらっています。両団共に創立者は、伊吹

32 期声楽 荒木 裕子

「4 年で 1 0 0 人」の原稿、皆さんどんなことを書いていらしたかな？と会報を 1 部取り出して開いてみたら、偶然恩師植田治男先生の文章が載っていました。ああそうだ、学生時代は先生に声楽を教えていただいていたなあと懐かしく思いました。

声楽を学んでいた在学中とは全く異なり、今の私の仕事はダルクローズ・リトミック講師です。京芸音楽学部

ど何もなし。細（ささ）やかであっても私の歴史をもはや目で辿ることは叶いません。慣れ親しんだものがそこに存在するだけで、そんな幸せなことはありませんが、何とも寂しい限りです。本当に大切なものは、目に見えないもの、その教えを信じ、この深い喪失感を財産にかえ、心の目を養っていかねばとつくづく思うのです。私のパフォーマンスなどとるに足りないですが、それでも大切なものは、何か追い求めているこうと思います。今回のコラボのきっかけはそんな希望の表れでもあります、見ることの出来ない音楽は不死身で、その世界はオールマイティ。人は言葉と音楽で心を伝え合うことができる。そんな素晴らしい発見をこれからもしていきたい。未来へだけでなく、過去へも旅をさせてくれる音楽があれば・・・。

あの日、語り手と共にリストの名曲が道先案内人となって、演奏する私を懐かしい「櫨の樹」へと誘（いざな）ってくれました。

新一先生、17 期作曲・高山惇先生、と、京芸卒の大先輩。廣瀬量平先生にたびたび新作を委嘱してきた立命メンネルは、「廣瀬作品のスタンダードを世に示す」べく、ここ 4 年がかりで、現役 & OB 一丸となって 3 つの合唱曲（一部、抜粋）を録音。今年 9 月には、28 期作曲・秋透さんがレコーディングディレクターとして東京から、また 27 期声楽・日下部祐子さん、35 期声楽・福永圭子さんが発声指導に駆けつけられ、緊張感溢れる濃密な音楽空間を体験させてもらいました。さて、4 年ごと厚みを増す真声会名簿を開いてみれば、いつの間にやら、前半頁に掲載される年代となりました。夕飯の作り置きメニューのレパートリーのように、ピアノソロのレパートリーも増えていってこないものでしょうか。

研究機関「京都子どもの音楽教室」で子どもたちのリトミック、名古屋音楽学校リトミック指導者養成科で指導者を目指す方のコース、ダルクローズ国際免許制度登録講師として国際免許の試験官、日本ジャック＝ダルクローズ協会理事として運営の仕事、いろいろな地方でのリトミックの講習会など、日々走り回っています。

学生時代サボり魔だった私を知っている方々には、絶

対に信じてもらえないくらい真面目な働き者に変身しました♪

大学を卒業して勤めた名古屋音楽学校でリトミックと出会い、もともと踊ること・歌うこと・創ることが大好きだったので、音楽の身体表現であるリトミックに、あっという間に夢中になりました。すぐにニューヨークに飛んでダルクローズ音楽学校でダルクローズの直弟子だった Dr. ヒルダ・シュスターに学び、その後毎年夏にボストン、ピッツバーグなどに行って勉強してダルクローズ国際免許を取得しました。

リトミックは、小さな子どもが楽器を習う前にちょこっと体験する音楽遊びだという認識がまだまだ多数だと思いますが、実は創始者ダルクローズは、プロを目指す音大生

33 期ピアノ 高瀬 佳子

京都芸大の学生時代に、何十年も先の今の自分がピアノを演奏し続けているなんて、多分信じていなかっただろうと思います。子供の頃からどのような時でも、ピアノを弾くことによって心を落ち着かせることができたから、音楽と人間の心の関係などを勉強したいなあなどと漠然と考えていたぐらいでした。卒業後ミュンヘンに留学して、そこで運良く様々な一期一会と言えるような素晴らしい演奏を聴く体験ができ、それが自分の中で何よりの財産になったような気がします。

帰国直後リサイタルを開催、すぐ結婚、結婚退職した（！）作曲家の十河陽一と共に、先のわからないスリリン

38 期ヴィオラ 榎（尾崎）幸子

京都市立芸大を卒業して 20 年が経ちました。現在は結婚して高槻から京都に居を移し、生徒を教えたり、オーケストラのエキストラ、カルテットなどをさせて頂いています。

京芸で学ばせて頂いた 4 年間も大変充実していましたが、今でも心に深く刻み込まれているのは、卒業後に京都市立芸大の名誉教授でいらっしゃる岩淵龍太郎先生にカルテットを共演させて頂きながら御教授頂いたことです。それまで私は大学でソロやオケ、弦楽合奏などを学んで来ましたが、室内楽を深く勉強してきませんでした。卒業してすぐにフリーになり、先生も退官されていて、「ヴィオラをカルテットでやってくれないか」と、お声をかけて頂いたことがきっかけでした。小さな演奏会に度々出演させて頂いてバロックから現代曲に至るまで様々なジャンルの室

や演奏家が、より生き生きした表現を体得するためのメソッドとして考え出しました。

欧米では、子どもから高齢者まで、演奏家も音楽愛好家も、たくさんの人がリトミックをしています。私も、自分がリトミックのレッスンを受けるのがとても好きです。音楽とともに動き、音楽が身体を動かしてくれる喜びを感じ、心にとくさんの幸せな気持ちが沸いてくる、不思議な体験のできるメソッドだからです。

リトミックの総本山ジュネーブのダルクローズ音楽院では 100 才を過ぎるまで教えていた名物の先生がいらして、そのクラスの生徒は 80 ～ 90 代のおばあちゃんたちでした。私もそんなふうに、100 才までリトミックに関わって行きたいと密かにもくろんでいるのです♪

グな生活をしながらも、音楽を通して、常に私達は素晴らしい人々との出会いに恵まれ、途切れることなく演奏する機会があったことは本当に有難いことです。昨年は演奏生活 2 0 周年のリサイタルをいずみホールで開催、今年も 9 月に高槻現代劇場でリサイタルをさせていただきました。

不器用で、自分の限界を感じながら藻掻き続けているばかりの私なのに、演奏することで喜んでくださる方が少しでもいらっしゃるなら、それは大変幸せなことだと感じます。周りの温かな人々に感謝しながら、これからも地道に音楽に向き合っていこうと思います。

内楽を御指導頂きました。特にベートーベンのカルテットは素晴らしく、それまでオケでしか知らなかったベートーベンの人生や音楽の神髄を教えて頂きました。2 か月に一度京都文化博物館で開催されていた演奏会にも多く出演させて頂いただき、多彩な素晴らしい共演者にも恵まれました。皆さん、下手な私に付き合って下さり、辛抱強く指導して下さいました。現在カルテットの仕事をしておりますが、このときの貴重な体験を生かせていると思っております。これからは指導もして行く立場ですが、これまでに私が多くの方々から学ばせていただいた事を、生徒たちに伝えていきたいと考えています。



ロシア音楽に魅せられて 46 期声楽 藤原 (高井) さおり

2003 年 8 月、主人の転勤でモスクワの生活がはじまりました。京芸で勉強していた頃からロシア歌曲に魅せられ、卒業試験でチャイコフスキーの歌曲を演奏した私にとって、このモスクワ行きはまたとないロシア音楽を学ぶチャンスとなり、渡露後すぐに研修生としてロシア国立モスクワ音楽院に通うことになりました。その後同音楽院の大学院に進み、都合 6 年勉強することになりました。ロシア滞在中は、沢山のコンサートに出演させて頂きました。サロンコンサートのような小規模なコンサートが多かったのですが、熱心に耳を傾けてくれる聴衆を間近に感じながらの演奏は、私にとって本当に良い経験になりました。なによりロシア人の前でロシア歌曲を歌うという事の怖さと同時に楽しさも存分に味わうことができました。また大学院

51 期ピアノ 山本 紗佑里

私は、大学卒業後、小学校の非常勤講師になりました。小学 1 年生や 2 年生の学びを担当しており、授業中は学習の補助やサポートが必要な子どもの指導をしています。そして、休み時間には、子どもたちと校庭で遊んだり、ピアノを弾いてみんなで歌ったりしています。小学校は、集団行動を身につける大事な場所なので、生活面の指導も大切です。友達と協力すること、優しい声かけをすることなど豊かな心が育つよう心掛けています。子どもたちが成長していく姿を見ると、とても嬉しく充実した日々を過ごしています。音楽活動は、主に合唱団などの伴奏をしています。先日、演奏旅行でイタリアへ行き、たくさんの観光名所を巡りイタリアを満喫してきました。中でも、フィレンツェで現地の合唱団とジョイントコンサートをしたことが心に残っています。博物館の建物に囲まれた吹き抜けの中庭にピアノが置

54 期打楽器 可児 麗子

大学院を修了して 1 年半が経ちました。現在、私はマリンバでの演奏活動の傍ら、学校や京芸の教育機関である京都子どもの音楽教室で指導しています。京都子どもの音楽教室では、在学中一緒にオーケストラの授業で演奏した仲間からベテランの奏者まで沢山の京芸の先輩・後輩がいます。年齢関係なく皆で授業の方針を話し合ったり、研究会を開いて更なる授業の向上をはかったりと、私自身、凄く勉強になる事が多いです。また、音楽教室では 3 歳から高校生までの子ども達が在籍してい

て卒業するための論文を書く過程で、ロシア歌曲について沢山の事を学ぶことができました。その中で、多くのロシア人の作曲家が、歌曲を作曲することに大変な情熱を傾けていたという事実を知り驚きました。ところが日本では、ロシア人の作曲家の交響曲やピアノ曲に比べ、歌曲の演奏される機会が決して多いとは言えません。あのアルファベットがひっくり返ってしまったようなキリル文字で表記されるロシア語になじみが薄いせいだと思いますが、これはあまりにも残念な事です。僭越ではありますが、これからは少しずつロシア歌曲を紹介する機会を設け、またロシア歌曲を演奏してみたいと思う方がいれば、そのお手伝いをする事ができればと思っております。

いてあり、古代ローマの世界へタイムスリップしたような良い雰囲気の舞台でした。夕方になると、爽やかな風が吹き、遠くの教会から鐘の音が聴こえ、空を見上げると青色からうっすらオレンジ色に変わろうとしていました。空気、音、色、どれも美しく調和し「なんて素晴らしい空間だろう。」と感動しました。

本番まで少し時間があったので、この日のプログラムには入っていない、ローマの教会で演奏するリストの〈愛の夢〉と〈リゴレットパラフレーズ〉をこっそり練習していると、ピアノの音が空まで響き渡り「私のピアノ、空まで届け〜!」と、とても良い気分になりました。早めに聴きに來ていたお客さんや合唱団の方が、曲に合わせてメロディーを口ずさみ、演奏を終えると「ブラボー!!」と温かい拍手をしてくださいました。あの感動を忘れることなく、これからも演奏していきたいです。

ます。キラキラした瞳で、生き生きと演奏する子ども達。その姿を見る度に胸が熱くなり、微力ながら子ども達が更に音楽が好きになる手助けが出来たらと思います。

私が力を入れている演奏活動の 1 つに、オカリナとマリンバのデュオがあります。こちらは 53 期の佐々木一真さんと一緒に「森の詩」と言うグループ名で演奏をしています。オカリナとマリンバの為のオリジナルの曲はほとんどない為、試行錯誤を重ねています。また、大学院在学中にお世話になったマリンバ奏者、名倉誠人先生の紹介でメキ

シコの作曲家 G. デルベスさんに新曲を依頼し、今年の 8 月、彼女に作って頂いた新曲を岡山県と兵庫県で開催した演奏会で初演しました。日本語が全く話せない作曲家と契約のやり取り、楽曲の修正や意見交換などを全て英語で行いました。凄く良い経験になり、自分の視野も広がりました。やはり、私達自身の為を書いて頂いた作品なので、その重みをしっかり感じながら、大事に演奏していきたいと思います。

56 期声楽 久場 夏子

私が大学を卒業して 3 年目となりました。卒業後、様々なところで音楽をさせて頂くなかで多く尋ねられるのが「点字楽譜ってあるの?」「どういう風になっているの?」ということです。日本では、視覚障害者の中で点字を読む人は一割と言われており、その中で点字楽譜を読む人となると更に少なく、存在があまり知られていないのが現状です。この場をお借りして、私が日々使っている点字楽譜について書かせて頂こうと思います。点字楽譜は五線譜とはまったく違った仕組みを持つ、記号譜のようなものです。4 分音符のドはこの記号、8 分音符のレはこの記号、といったようにそれぞれに記号が割り当てられており、その直前に音列記号と呼ばれる高さを表す記号を付記することによって音符を書き表します。これに、更に曲想記号などを加えたものを、横一列に書き並べて点字楽譜はできています。点字は縦に書くということができませんので、例えばドミソの和音を書くときには、ド



真声会からのお知らせ



真声会のホームページを是非ご覧下さい！

週 3 日の同窓会室開室により、ホームページが充実してまいりました。教員・演奏者等の募集情報や、後援演奏会情報を随時更新しております。また、過去の会報も見ることができます。どんどんアクセスして下さい。

<http://www.shinseikai-kcua.net/>

同窓会事務局が月・水・金 週 3 日稼働しています！

音楽学部同窓会事務局は現在、月・水・金の週 3 日、午前 10 時から午後 3 時まで稼働しています。

こうして、今も演奏活動をはじめとする音楽の仕事を頑張る事が出来るのは、全て京芸での 6 年間があったからだと思います。6 年間、本当に沢山の事を学び、沢山の仲間と共に過ごし、昔よりも音楽が好きになりました。感謝の気持ちを忘れず、演奏出来る幸せを噛み締め、これからも真摯に音楽と向き合い、成長し続けていきたいと思います。

の記号、ミの記号、ソの記号、を横に並べて表記します。音符と同じ行の真上や真下に曲想記号などを書くことも難しく、そういった場合は音符の前か後ろのいずれかに書くことになります。

よくある例は、全音符の途中から始まるクレッシェンドで、この場合、全音符を 2 分音符二つのタイに分け、二つ目の音符の前にクレッシェンドを書く、などして表します。しかしこのように表記してしまうと、全音符の途中からクレッシェンドが書かれている、というのとは少しニュアンスが違ったものになってしまいます。

他にも点字楽譜で書き表すことが難しいものや、書き表し方が開発されていないものもあります。どのように書けばより五線譜に近く、そして読みやすくなるか、日々音楽するなかで、新たな表記法を探す試みは一生続きそうです。

今号の会員だよりには 9 名の会員の方より寄稿いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

美術学部と同室で、美術学部・音楽学部同窓会事務局として同窓会業務を行っております。皆様、ぜひお気軽に専用電話番号にご連絡下さい。本部役員または担当者がお問合せに直接お答えします。

開室日：毎週月曜日・水曜日・金曜日 (10:00~15:00)
※年末年始、お盆、祝日及び学内立ち入り禁止期間 (入試等) は休室します。

電話番号 080-6185-4494

開室時間外にお電話を頂いた場合、留守番電話にお名前とご連絡先を録音して頂ければ、開室時間中に同窓会事務局よりご連絡いたします。

真声会 各支部活動報告

滋賀支部

音楽学部創立 60 周年おめでとうございます。

さて、当支部の演奏会は 11 月 10 日 (土) 開催ですが、本部会報の発行は 11 月と聞いております。事後報告になるかもしれませんが、概要をお知らせします。

第 24 回演奏会「湖のしらべ」しがぎんホールにて 18:00 開演

・ソプラノ独唱 速水 優 (52 期) ピアノ伴奏 松田 千夏 (53 期)

モーツァルト、ヴォルフ、グノーの歌曲、オペラアリア

・マリンバ独奏 奥村 夏海 (55 期) 打楽器共演 辻 翔太郎

チェン「エチュード Ddur」、ペイプ「マリリリリンバ・ロロロック」

・ピアノ独奏 上田 明美 (44 期)

ベートーヴェン ピアノソナタ「悲愴」

・六重奏 ピアノ 多川 響子 (44 期) フルート 竹林 秀憲 (16 期) オーボエ 須貝 絵里

クラリネット 松田 学 (36 期) ファゴット 大角 多佳子 (48 期) ホルン 野々口 義典

トウイレ「六重奏曲」

・全員合奏

ドビュッシー「亜麻色の髪の乙女、ゴリウォーグのケーキ・ウォーク」

編曲 日向 宣広 (39 期)

以上の内容でした。全員合奏は生誕 150 年のドビュッシーで締めくくりました。

支部長 杉中博 (19 期 TP)

大阪支部 <http://senri-music.com/shinseikai-osaka/>

今年度の総会が、5 月 12 日 (土)「エル・おおさか」(天満橋・府立労働センター) で、コンサートと総会をドッキングして開かれたことは既報の通りですが、7 月 3 日、世話役会で決められた世話役の役割分担は次の通りです (任期 2 年)。

支部長＝大村益雄 (1 期作)、副支部長、○広報＝金森重裕 (6 期 cl)、副支部長、○コンサート企画・運営＝大富栄里子 (28 期 pf)、事務局長＝樋口博行 (27 期 pf)、会計＝飯田真基 (17 期 vn)、広報＝西川香代 (45 期 cl)、広報＝住本紗恵 (51 期声)、コンサート企画・運営＝大西多恵子 (10 期声)、同＝柴田千恵子 (18 期声)、同＝森池日佐子 (18 期声)、同＝小崎恵理子 (30 期 vn)、同＝釋まなみ (32 期声)、○事業企画＝中島慈子 (10 期声)、同＝中林節子 (12 期声)、同＝康瑛 (31 期声)、監査＝井上惇子 (1 期 pf)、同＝竹内恵子 (5 期 vn)、(以上、世話担当・卒業期順、○印は主担者) 総会およびその後の世話役会でも“ぜひコンサートを”という声盛り上がり、来年、2013 年 9 月 29 日 (日) いずみホールで開催することが決まりました。

支部発足以来、地域にナマの音楽を広める運動として、38 回のプロムナードコンサートを作ってきたことをベースに、中央で、しかも若い人たちの発表の場をと、2001 年 10 月 3 日、ザ・フェニックスホールにおいて「フレッシュ コンサート」と銘打ったコンサート開催を第 1 回として、この間、「ブリリアント・コンサート」などと、名称は変えてきましたが、今回が、第 10 回目となります。

これを記念して、初めて、いずみホールでのコンサートとなります。これまでに、支部報を通じて出演公募を行ってきましたし、精力的に実行委員会を開いて、実施についての検討を重ねています。詳細についてはまだ確定していませんが、みんなで、総力を挙げて取り組み、実りあるコンサートを実現したいものです。次号では、内容が発表できると思います。ご期待ください。

このコンサートに関しては、主担者の大富栄里子 (090-8232-0780) までお尋ねください。

支部へのお問い合わせ・入会は、大阪支部事務局へ。545-0004 大阪市阿倍野区文の里 4 の 12 の 25 樋口博行方電話とファクス 06-6624-3425 まで。(文中、敬称略)

副支部長・広報担当 金森重裕 (6 期 cl)

京都支部

厳しい残暑が長く続きました去る 9 月 16 日 (日) に、府民ホール アルティに於きまして、第 29 回プロムナードコンサートを開催し、当日は暑さの方も比較的過ごし易く、多くのお客様にご来聴頂きました。今回もソプラノ独唱 2 組、朗読とピアノのコラボレーションによる創作童話、クラリネット・ホルン・ピアノの為の三重奏、弦楽五重奏の、大変バラエティに富んだ内容豊かなプログラムで、コンサートを無事盛会裏に終える事が出来ました事に大きな喜びと充実感を覚えています。ご協力、ご来聴賜りました皆様に深く感謝し、厚くお礼を申し上げます。

次回は来年 9 月 15 日 (日) にまた府民ホール アルティで、第 30 回記念コンサートを予定しています。

1988 年に京都支部発足以来、今日までの 24 年間の京都支部の歩みを大切にしながら、毎年のプロムナードコンサート開催を中心に、京都支部報発行と合わせて、今まで何回か研修会等も企画し、会員の皆様に豊かな情報をお届けして、京都支部会員としての研鑽・活動の場が広がることを願って取り組んできております。

300 名を超える京都支部会員には、活発に素晴らしい演奏活動をされている方々が沢山おられますが、毎回のプロムナードコンサートに積極的に出演申し込みをして戴く方が意外と少ないことが残念です。私たち役員も、出演者の皆様が気持ちよく演奏に専念して頂けますように出来る限りの準備をして、このプロムナードコンサートを益々発展させて行きたいと願っています。

来年はより実り多い記念コンサートになりますよう、皆様のご支援をよろしくお願い致します。

支部長 山田晏子 (10 期声)

中部支部

5 月の第 3 回支部総会を無事終え、2012 年度も早、後半に入りました。総会の報告を兼ねた 8 月 1 日発行の「中部支部会報 NewsLetter 第 5 号」も中部地区の皆様には宛名不明で返送される方はひとりもなくお届けすることができました。

原稿作りから発送までの作業は緊張の連続でいつまでたっても慣れることはありません。まだ 5 号目、もう 5 号目と思いながら約 180 通の一齐発送を完了する度にほっとしますが、それもつかの間、すぐ次号が迫ってきます。現在は、支部会報を通しての活動が唯一「要」となっているだけに、日ごろの情報集めが紙面に反映してしまいます。多くの会員の方が地元でご活躍のことと思いますのでお気軽に当支部までご紹介・報告頂けると有り難いです。もちろんご要望も募集中です。

新広報委員さんが加わって下さったことでより能率的になり、今まで気づかなかったことも多々改良でき、レイアウトも一新できました。各支部のような話題満載というところまでいきませんが、今後も変わらず心待ちにしていけるような記事作りを目指していきます。音楽学部 60 周年記念行事や年度末の会員名簿更新など節目の年を機に、互いに思いを共有して支部活動の輪を拡げて参りましょう。

支部長 中島百合子 (19 期作)

奈良支部

6 月 9 日創作料理 花想花にて 奈良支部が開催され、役員改選で 2 期 4 年間御尽力いただきました、高橋せつ子支部長から菊田義典にバトンタッチされ、新たに岩谷寿美子副支部長が役員に参加くださいました。そのほかの役員は留任いただきました。その後の懇親会では食事を楽しみながら親交を深めました。

8 月 1 日にスタジオかまぼこにて本年も「音出し会」を行いました。今回は参加者に新しい顔がなかったですが楽しい時間を過ごしました。こういった催しを開くことで、会の目的の内の進歩向上に資すると共に相互の親睦をはかることができると思います。今後も続けていきたいと思います、みなさまどんどんご参加ください！

現在、この冬発行の支部会報に向け広報を中心に頑張ってもらっています。あと、第 15 回奈良支部定期演奏会について、2013 年 8 月 8 日 (木) 午後 2 時開演 (予定)、秋篠音楽堂にて開催決定いたしました。内容につきましては、親子で楽しむコンサート！(0 才～大人) をコンセプトに掲げています。現在企画参加者募集中です。

高橋前支部長には感謝の念を、そして今後も御助言御助力をお願いいたします。そしてこのたび支部長を引き受けることとなりました。若輩者のため至らない点もございますが奈良支部ともども皆様どうぞよろしくお願いいたします。

支部長 菊田義典 (42 期声)

関東支部

清々しい秋空の 10 月 8 日 (月 ・ 祝) 、大泉学園ゆめりあホールにて、真声会関東支部第 17 回定期演奏会が開催されました。12 組が出演！新入会の蒲原尚美さん (36 期声楽)、ヴァイオリン加瀬照美さん (23 期) がソロで初出演してくださり、関東支部設立当初から舞台に立ち続けてくださる大先輩、日頃から研究会で研鑽を積むピアノアンサンブル doux のメンバー、常に挑戦し、華を添えてくださる声楽の皆さん、また今回は室内楽での参加もありました。溢れるわかさであったり、深く年輪を重ねた味わいであったり、妥協することなく磨き上げた精進の成果であったり、今年もさまざまな彩りを持つ演奏の数々が、和やかな雰囲気の中で披露されました。トレカンパーネやステージマネージャーとしてリードしてくれた山崎ひとみさん (31 期声楽)、それに出演者のご家族など多くの方に支えていただきました。客席が同窓生にとって久しぶりの再会の場になっていることも喜びです。

また、少しずつではありますが、関東支部は会員数が増えています。子育てをしながら音楽活動をつづける 30 期代の方が、声を掛け合って入会してくださったり、オーケストラで活躍していらっしゃる方も、同期生がコンサートに足を運んだり、共演することをきっかけに関心を持ってくださったり・・・つながりがそれぞれの活動をまた楽しく豊かにすることになっていけばよいと期待しているところです。

市音の東京公演 (10 月 16 日) にも、応援の気持ちを持って誘い合いながら出向きます。音楽を通して社会参加することも視野に入れつつ、楽しみながら活動を続けたいと思います。

副支部長 曾我尚江 (27 期 Pf)

京芸だより

～定期演奏会を聴きにいらしてください～

京芸音楽学部への真声会の皆様方のご協力に心から感謝申し上げます。

音楽学部 60 周年の今年、ついに東京藝大シンフォニーオーケストラとの共演 (競演) が実現します。どうして実現まで 60 年もかかってしまったのだろうと不思議に感じるほど、この企画は必須のものです。どうしても実現しなければならぬものだったと思います。

なぜなら、若き音楽武者修行者にとって異なる価値観との遭遇はどうしても欠くことのできないものだからです。同じ音楽の道を志す同年齢の他者、それも非常に優れた他者との出会いは京芸の若者たちに素晴らしいチャレンジとなるに違いありません。中には彼我の差の大きさに驚き絶望的な思いに落ち込む者もいるかもしれませんが、それでもいいと思います。現代社会の荒波の中で音楽家として身を立てていくには、七転び八起きは当然です。私自身の経験を顧みても、20 歳の時初めて上京し、東京藝大の打楽器研究室を訪問してそこにいる素晴らしい学生たちと出会い、一緒に演奏したり語り合ったことが、今でもよき財産として残っています。落ち込みと希望、不安と確信を同時に感じた時でした。京芸の学生たちのたくましさはこの 60 年間変わってないと信じます。必ずや大きな成果を持ち帰ってくれるものと期待しております。

皆様のさらなる応援をどうかよろしく願いいたします。

音楽学部長 山本毅

京都市立芸術大学音楽学部創設 60 周年記念
第 142 回定期演奏会

日時:平成 24 年 12 月 9 日 (日) 14 時開演 (13 時開場)

会場：京都コンサートホール・大ホール

曲目：デュルフレ レクイエム

ラフマニノフ 交響曲第 2 番

指揮：尾高忠明

ソリスト：折江忠道・小濱妙美

入場料：1200 円 (全席自由) ※真声会会員は無料

お問い合わせ：京芸教務学生支援室 (事業推進担当)

075-334-2204

真声会会員の皆様は**会員証の提示**により
無料でご入場いただけます。

会場受付にて卒業・終了期、専攻、お名前をお知らせ下さい。
また、会報に印刷されている真声会会員券をご利用下さい。
この会員券は、会員様ご家族、友人知人のご利用が可能です。
皆様のご来場を心よりお待ちしております。
※会員券チケットは、19 ページにございます。

2012 年度演奏旅行のお礼とご報告

この度は 2012 年度京都市立芸術大学音楽学部演奏旅行へのご援助、本当にありがとうございました。真声会からのご援助を頂き、何年も続く演奏旅行を本年度も無事に終える事が出来ましたのでお礼とご報告を致します。

2012 年度は私、戸田雄太の出身地でもあります長崎県と隣県の佐賀県で 9 月 1 0 日から 9 月 1 4 日 (1 0 日と 1 4 日は移動のみ) にかけて 5 公演を行いました。九州の端に位置する長崎県で生まれ育った私は中学生の時に吹奏楽部に入部しましたが、大学に入るまでは「生のオーケストラ」に触れる機会はありませんでした。吹奏楽部で日々音楽と接している人でもこの状況です。そのような環境で育ってきたからこそ、長崎での演奏旅行を行って 多くの方々に「生のオーケストラ」を聴いてほしいという強い気持ちが芽生えていました。

本年度は長崎県で 4 公演、佐賀県で 1 公演を行いました。その内 1 公演は体育館をお借りして生徒だけでなく近隣住民に向けての公演を行うことができ、多くの方々が来てくださっていました。この 1 公演のために、体育館を貸してくださった学校が地元の新聞社に掛け合って宣伝を行ってくださり、また 5 公演全てに新聞やテレビの取材が入り、ニュースや朝刊などにこの演奏旅行がピックアップされました。長崎、佐賀の方々にとって演奏旅行が一大ニュースになったのだと思います。

「この町に住む多くの人達にとって生のオーケストラを聴くのはこれで最初で最後かもしれない。みんながこの日を楽しみにしていました。本当にありがとう。」このような言葉を公演先の校長先生から頂きました。オーケストラ伴奏の校歌を歌いながら感動で泣いている方も多くいらっしゃったそうです。この演奏旅行での公演が多く方々の思い出になったと私は信じています。

さて、本年度は開催地が長崎で移動が大変なこともあり参加者が集まるかという心配がありましたが、55 名の参加者が集まりました。南港から福岡までフェリー、その後はバスで長崎までの移動のためかなり時間がかかりましたが、公演先での暖かい出迎えや子供達の笑顔で移動の辛さも少し和らいだのではないかと思います。せっかく長崎に行くということでハウステンボスやグラバー園などの有名な観光地に行ったため、演奏だけでなく観光の面でも充実した演奏旅行になったのではないのでしょうか。

移動費に加えて楽器の運搬費がかかりチャリティコンサートにすることができないため公演費を頂かなければなりません。そのこともあり公演先の学校がなかなか決定せず苦労しましたが最終的に 5 公演を行うことができ、大きなトラブルもなく無事に終える事ができました。委員一同、この演奏旅行を実行できで良かったなという気持ちで一杯です。これからもこの活動が続いていくことを心から願っています。ご援助本当にありがとうございました。どうぞこれからもこの活動へのご理解とご支援の程、よろしくお願い致します。

演奏旅行実行委員長 管・打楽専攻 オーボエ 3 回生 戸田雄太



真声会会員のコンクール等受賞者

○第 5 回フレッシュアーティスト・コンクール

(平成 24 年 3 月 11 日 小松川さくらホール)

全部門 一般の部 第 4 位

学部管打楽専攻 (打楽器) 4 回生 岡村 彩実

○第 6 回プロコフィエフ国際コンクール

(平成 24 年 4 月 20 日から 23 日 ロシア サンクトペテルブルク)

作曲部門 (独奏チェロのためのソナタ) 1 位なしの第 2 位

1999 年 3 月卒業 ピアノ専攻 野田 憲太郎 (44 期)

○第 4 9 回なにわ芸術祭新人賞選出・新進音楽家競演会

(平成 24 年 4 月 19 日 サンケイホール)

新人賞

学部 2012 年 3 月卒業 ピアノ専攻 中村 太紀 (57 期)

○第 9 回堺国際ピアノコンクール

(平成 24 年 6 月 10 日 堺市立東文化会館文化ホール)

一般の部第 1 位、オーディエンス賞

大学院修士課程 器楽専攻 (ピアノ) 2 回生 大淵 真悠子

○第 2 4 回宝塚ベガ音楽コンクール

(平成 24 年 6 月 24 日 宝塚ベガホール)

第 1 位

大学院博士課程 器楽専攻 (ピアノ) 2 回生 東山 洗雅 (53 期)

第 2 位

学部 2004 年 3 月卒業 ピアノ専攻 中村 圭介 (49 期)

第 4 位

大学院修士課程 器楽専攻 (ピアノ) 1 回生 木口 雄人 (57 期)

第 6 位

学部 ピアノ専攻 2 回生 西岡 沙樹

○文化庁長官表彰 (国際芸術部門)

功績 エリザベート王妃国際音楽コンクールでグランプリを受賞

(表彰式平成 24 年 7 月 18 日)

学部 2000 年 3 月卒業 作曲専攻 酒井 健治 (45 期)

○第 2 5 回国際古楽コンクール

(平成 24 年 4 月 30 日 甲府市社会教育センター)

審査員奨励賞 (1 , 2 位なし)

学部 2010 年 3 月卒業 声楽専攻 中嶋 俊晴 (55 期)

○第 1 7 回日仏声楽コンクール

(平成 24 年 5 月 13 日 旧東京音楽学校奏楽堂)

入選

学部 2010 年 3 月卒業 声楽専攻 中嶋 俊晴 (55 期)

○ Asian Composers League Conference & Festival in ISRAEL

(演奏日時 2012 年 10 月 16 日 Tel Aviv Felicia Blumenthal Music Center)

入選

大学院修士課程 1991 年 3 月院修了 作曲専攻

中村 典子 (32 期・院 4 期)

退任の挨拶

名誉教授 松本日之春 (作曲)

退任してからももうずいぶん時が経ちました。在任中、日常にあった実に様々な出来事は既に遠い風景の中の形をなさない色合いのように、しかし鮮明に心の中に在り続けています。

今も、石畳の中庭から見る講堂、その背景の西山、昼休みに響く皆のさんざめき、懐かしいというより、今もそのままに。その風景の中に、2000年代の友、共に生き、ともに音楽を創り続けた皆、響／都プロジェクトと共に闘い、ともに悩み、共に感動した皆との時間は、私の中で永遠となり、現在にイメージの層となって在り続けています。

美しき日々をともに生きた皆を心から誇りに思っています。

若き日々をそのままに、再び集まり音楽を創れることを、夢に、希望にしています。

京芸で奇跡的に出会えた友たちよ、美しき日々をこれからも！！



着任の挨拶

准教授 豊嶋泰嗣 (ヴァイオリン)

平成22年に着任後速くも3年目に入り、大学生活の4年間というのがいかに短くあっという間に過ぎてしまうのかを痛感している今日この頃です。音楽芸術の世界は一生終わりのない勉強の道なので、大学の4年間はその始まりのほんの一步に過ぎません。私もまだまだ未熟ですが、音楽の厳しい道のりの第1歩を踏み出す京都芸大の学生の為に少しでもお役に立てるように頑張りたいと思います。

専任講師 日紫喜恵美 (声楽)

滋賀大、相愛大、京都芸大、愛知県立芸大、京都堀川音楽高校の非常勤を述べ14年勤め、昨年京都芸大に講師として着任する事になりました。

高校時代はポップス、大学に入学してからはミュージカルとクラシック一辺倒ではなかった私が今、ここにいるのは、京都芸大という暖かな学舎、またひとえに素晴らしい先生方と同窓生のいる環境にいられたお陰だと思います。

メイド・イン京芸、京都の私は、そのまま留学、海外コンクール、オペラとさまざまな挑戦を重ね、幸運にも良い評価をいただけてくることができました。

京芸には今も暖かく背中を押してくれる伸びやかな空気があります。

驚いたのは私たちの年に始まったミュージカルが今も続いていて、また当時の関係者が、指揮の佐渡さんはもちろん、美術の方もたくさん教鞭をとっておられたりと身近で活躍されている事でした。

京芸の伝統を感じる時、同時に受け継いでいく重責も強く感じます。

同窓生が私の誇りだとすると生徒たちは宝物。京芸の暖かい絆を伝えていけるよう精一杯、生徒たちに愛情を注ぎ一緒に勉強を続けていきたいと思います。

京芸では、フレッシュな個性派3回生が1月22日にオペラ『森は生きている』を、楽しく元気な4回生は1月8日に『コジ・ファン・トゥッテ』を、才能溢れる大学院生は2月20日、21日に『夢遊病の女』を上演します。どうぞ宝物たちに会いは是非お越しください！

そしてなんと偶然、私も5月4日に吹田メイシアターで『夢遊病』を演じます。

縁の深さ、不思議さを感じながら自分もまだまだしっかり磨いていきたいと思います。

これからもどうぞご指導を宜しくお願い致します。

伊吹新一氏を偲んで

私が入学した頃は京都市立音楽短期大学でしたが、2回生の人数も少なく30人でした。鴨川べりにある現在の京響練習場が学舎で、2年間学びました。男子学生は少なく8人くらいで、あまりにも人数が少ないので、オーケストラは堀川高校音楽科（現、市立京都堀川音楽高校）と合同で、それでも人数が足りず、伊吹さんは確かビオラを弾いておられたように記憶しています。彼は我々の学年で最年長でしたので、いろいろお世話になりました。卒業後、私は大阪市の中学校音楽科教諭として勤務しておりましたが、卒業して何年か後、大学の統合、廃校などの問題が生じ、存続のため、当時の先生方や卒業生が署名、陳情、集会などを行いました。伊吹さんがいろいろ働いておられたのを鮮明に思い出します。とても精力的に活動されておられました。私も数回一緒に署名活動をしたと思います。その後のことは、伊吹さんは合唱指導、高校や大学の教員として指揮法をはじめとする分野で活動されたのは、みな様ご存知のことでしょう。

私たちの頃は少人数のため、大学というより、小さな塾のような感じでした。今回、訃報を聞き大変残念です。心からご冥福を祈ります。

2回生の頃、伊吹さんが「今度LPレコードとステレオを購入したので聴きにおいで」と言われ、何人かでご自宅へ行き、長時間レコードを聴き、音量の大きさや、音質の良さに驚きましたが、懐かしい思い出です。

彼のことから、天国のオーケストラや合唱の指揮をなさっていることでしょう。

合掌

2期ヴァイオリン 前 正二

伊吹新一先生を想う

私にとりまして伊吹先生は、先輩であり指導者でもあり、そして同僚でもありました。

40年以上も前になりますが、当時、コンサートマスターの岩渕龍太郎先生率いる音大生を中心に出来ましたアカデミアオーケストラとは、モーツァルトのピアノ協奏曲、20番や23番を伊吹先生の指揮のもと、演奏させていただきました。特にモーツァルトのピアノ協奏曲第20番は、学生鑑賞演奏会として第1楽章を京響と連続して6回も演奏させていただきました、その都度、昨日の反省やら翌日はここの表現を管楽器と合わせて、とか。京響との合わせの練習時間は少なかったのですが、充実した日々と、思い出に残る曲として勉強させていただきました。

堀川高校音楽科の専任教諭の時、お酒の飲み過ぎるS先生のため、何とかしてお酒を止めさせようと、伊吹先生と二人してS先生が机の引き出しに隠し持っていたウイスキーの中身を捨ててしまったり、S先生が身体をこわして入院し、やっと退院出来ると知っての退院祝いの会も、私たちはお酒を飲まないでジュースやコーラを用意して待つ所へ、べろんべろんに酔っばらってS先生が現れたり・・・。

後々、伊吹先生の別宅音楽室にお邪魔をして、音楽談義をしているつもりが、いつの間にかS先生の思い出話になったことがありました。あの当時、S先生がお酒を飲んで授業をしないように、外で問題を起こさないようにと、先生側はいろいろかばうように努力していたのですが、生徒からの思い出話として、もうすでに生徒たちにはわかっていたようでした。私たちは無駄な努力をしたのですが、懐かしい思い出として別宅音楽室でいつも出てくる話でした。

別宅音楽室には、プレイヤー、アンプ、スピーカー等が数多くあり、その音の、また響きの違いを伊吹先生は語り始めたらずまる事なく、またCDの演奏者の表現の違い等、熱心に説明をして、実際に音を出して聴かせてくださるので、夜も遅くなり、奥様がお寿司をとって下さったりなど等。

今思えば大変ご迷惑を掛けてしまったのですが、音楽に包まれて、仲間と共に語らっていた伊吹先生はとても幸せそうでした。病気さえなかったら、まだまだもっともっと音楽を楽しまれたことと思いますが、残念です。ご冥福をお祈り致します。

8期ピアノ 田中 美鈴



切り取り線

京都市立芸術大学音楽学部 第142回定期演奏会

音楽学部同窓会真声会 会員券
(会員以外の方も、ご利用可能です)

2012年12月9日(日) 14時開演 13時開場
京都コンサートホール大ホール

櫻井先生さようなら、そして、ありがとうございました！

櫻井武雄先生が、去る4月24日、お亡くなりになりました。94歳でした。7月1日、大阪駅のホテルグランヴィア大阪で開かれたお別れ会は、遺影に捧げる「折り鶴」をご持参ください、ご自由に参加されて櫻井先生とお話なさって下さい、会費は無用、という呼びかけでした。450人の人たちが集い、もちろん演奏あり、スピーチありでしたが、あちらこちらで参加者同士が旧交を温める姿が見受けられ、誠に「らしい」お別れ会でした。先生の人生訓が端的に表現されていました。詩を引用して、①青春とは、人生の一時期を言うのではない、希望の波をとらえる限り、80歳であろうと青春という。②私は今でも私のまま、あなたは今でもあなたのまま、と。

1952年、音楽短大発足時に赴任され、今日の京都芸大の基礎を築いてこられた教授陣のおひとりです。私は在学中、和声学と合唱を教わりました。「人間、櫻井！」が印象付けられる先生の周りにはいつも人の輪がありました。いつの頃から大阪芸大に移られましたが、労音が制作した数々の創作オペラやショスタコーヴィチの「森の歌」日本初演、オルフの「カルミナブラーナ」の演奏機会拡大などにも尽力されました。晩年は、大阪芸大名誉教授として活動され、ご自身の合唱団「鶴」の力量は高く評価されています。思い出すのは、櫻井先生は、京都音大10周年記念大阪特別演奏会(1962.11.5 サンケイホール)のマネジメントを私にと言ってくれました。卒業して3年目、何もわからないままに夢中で取組み、成功裡に終えて、京都音大ここにありを大阪で知らしめる結果となりました。何年もたってその経験が活かされて今日の私があります。正に櫻井先生のおかげです。よくみてらしたのかなと思いますし、大阪で仕事をしていた私にはいつも気遣って声をかけてくださいました。

先生は、1918年東京生まれ、武蔵野音楽学校卒業と同

◆ もう一つの創設60周年 ◆

今年は音楽学部創設60周年ですが、音楽学部音楽教育研究会の研究機関として開設している「京都子どもの音楽教室」も来年創設60周年を迎えることは、あまり知られ

時に入隊、旧満州へ。戦争体験がその後の人生の礎となって、強い信念で以て、音楽を通して反戦・平和を訴えてこられました。今の「平和ボケ」の私たちは、改めて、櫻井先生の思いを受け継いでいかなければと強く思います。

次に記すのは、昨年、2011年8月9日いずみホールでの「グローバルピースコンサート」パンフレットとびらの一文です。先生の思いを共にしたいと思います。

天災と人災

この3月に東日本をおそった大地震・大津波と、併せて起こった東京電力の原発事故は、人間の知恵では如何ともすることができない「天災」と、人間の知恵が生み出した「人災」である。「核の平和利用」という美名のもとに堂々と使用され続けてきた「原発」、「人間が生み出した最も危険なもの」が『核』であるということに気づいていないところに人間の愚かさがある。66年前の敗戦の際の原爆の悲惨さを知り、32年前(1979年3月)アメリカのスリーマイル島原発事故、25年前(1986年4月)旧ソ連のチェルノブイリ原発事故もよく知っている私たち日本人として、この吞気さ加減は何ということでしょう。

原発事故を知るや、直ちに大使館を大阪に移してしまったドイツ人の核に対する敏感な反応を見習うとともに、さらに一步を進めて『核』には一切ふれないくらいの新しい覚悟をもつべきであろう。

グローバルピースコンサート in OSAKA 代表 櫻井 武雄

今年も、同じ日、いずみホールで「グローバルピースコンサート in OSAKA '12」が開かれます。菊本和昭さん(48期tp)が、ソロで出演します。

6期cl金森 重裕

※真声会大阪支部報「97号」(7/31発行)に掲載された金森重裕さんの記事をご本人了解のうえ、記事の一部を割愛して掲載しました。(編集部)

ていません。音楽学部の前身である市立音楽短期大学創設当時、教授であった斉藤秀雄先生らの提唱によって、短大設立の翌年「京都子どもの音楽教室」が創設されました。

現在は学部長が室長となり、市立京都堀川音楽高校の校舎で授業が行われています。今年度指導教員37名のうち29名が真声会員であり、約250名の子ども達が毎週土曜日に通っています。

編集委員長 朴 実(12期作曲)
(京都子どもの音楽教室運営委員)

思い出写真館



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

①校舎前の土手を歩く一期生 ②校舎横土手の対岸ののどかな風景 ③土手左上に見える木造校舎 ④・⑤開学式で行われた講堂入口 講堂の左奥には正門があった ⑥前列右から 作曲 安部幸明先生 櫻井武雄先生 大村現会長(1期生) ⑦開学式でのコーラス「カヴァレリア・ルスティカーナ」 指揮:本田皐(しろぎ)先生 写真提供:熊谷房子(1期声楽)



真声会後援の演奏会

♪ソプラノデュオコンサート vol.3

～ワンコインで子どもから大人まで楽しめる音楽会～

日時：① 2012 年 8 月 11 日 (土) 14：00 (大阪公演)

② 2012 年 8 月 16 日 (木) 14：00 (長野公演)

会場：島之内教会 (大阪公演)

エコールみよたあつもりホール (長野公演)

出演：奥田聖子 (48 期 Vo) 丸山依里 (48 期 Vo)

石原由佳子 (48 期 Pf)

曲目：中田喜直：「六つの子供の歌」

J. ラター：すべての美しいもののために

となりのトトロ

童謡 他

♪近代フランスの室内楽

日時：① 2012 年 8 月 16 日 (木) 18:00 (京都公演)

② 2012 年 8 月 20 日 (日) 19:00 (東京公演)

会場：①京都府民ホール「アルティ」

② Space Do [DAC]

出演：河副功 (55 期作) 中川日出鷹 (55 期 Fg) 他

曲目：F. シュミット：A tour d'anche

河副功：L'ombre de l'encense (四重奏) 他

♪ピアノトリオの夕べ ～秋夜のファンタジー～

日時：2012 年 9 月 7 日 (金) 19：00

会場：清瀬けやきホール

出演：高田剛志 (38 期 Vc) 浜野考史 ベルント・ツアック

曲目：R. シューマン：ピアノトリオ第 1 番ニ短調

清瀬保二：ピアノ三重奏曲

J. ブラームス：ピアノとチェロの為のソナタ第 1 番 他

♪コチの会・東風 第 4 回公演

「八木邸リニューアル」祝木津川 5 周年記念イベント

日時：2012 年 9 月 15 日 (土) 14：30

会場：木津市「八木邸」

出演：加藤ユミコ (32 期作曲) 松園洋二 (38 期作曲)

平田あゆみ (29 期作曲) 川畑さやか (43 期 Vo) 他

曲目：平田あゆみ：月になりたい

高橋曜子：むらさき野 他

♪京都市立芸術大学音楽学部同窓会真声会京都支部による

第 29 回プロムナードコンサート

日時：2012 年 9 月 16 日 (日) 14：00

会場：京都府民ホール アルティ

出演：畠納仁美 (56 期 Vo) 西村孝子 (20 期 Pf) 川勝一摘 (20 期 Pf)

松田美紀 (27 期 Cl) 脇坂幸江 (24 期 Hr) 藤美千代 (43 期 Vo)

江口純子 (54 期 Vn) 岡本名那子 (52 期 Vn) 三宅恵 (54 期 Vn)

江口陽子 (51 期 Vc)

曲目：ドヴォルザーク：「白銀の月よ」

ライネッケ：三重奏曲

シュトラウス：「ひどい、お天気」

モーツァルト：弦楽五重奏曲第 3 番 他

♪真声会関東支部第 17 回定期演奏会

日時：2012 年 10 月 8 日 (月) 14：00

会場：大泉ゆめりあホール

出演：熊谷房子 (1 期 Vo) 島津与外次 (5 期 Vo) 坪井フミ子 (8 期 Vo)

加瀬照美 (23 期 Vn) 播磨美知子 (23 期 Pf) 曾我尚江 (23 期 Pf)

田中由実子 (27 期 Vn) 脇野真樹 (28 期 Vn) 丸山慶子 (30 期 Pf)

成島いずみ (30 期 Vo) 文野真理 (30 期 Vo) 奥田章子 (32 期 Pf)

高橋知子 (32 期 Pf) 高橋律子 (34 期 Pf) 蒲原尚美 (36 期 Vo)

元木いずみ (32 期 Pf)

曲目：モーツァルト：オペラ「フィガロの結婚」より

「楽しい思い出は何処へ」

平井康三郎：平城山

プーランク：夜想曲より第 1,4,5,7,8 番

ラフマニノフ：楽興の詩より作品 16-3,4

バルトーク：ルーマニア舞曲

ドビュッシー：映像第 2 集より「葉陰をもれる鐘の音」

「金色の魚」 他

♪北村敏則テノールリサイタル

日時：2012 年 10 月 11 日 (木) 19：00

会場：京都府民ホール アルティ

出演：北村敏則 (29 期 Vo) 大嶋義実 (26 期 Fl) 河合珠江 (51 期 Pf)

曲目：バッハ：Kantata55 番

ツェルター：Harfenspieler I . II . III

信長貴富：Fragmens 他

♪細川裕美子ピアノリサイタル

日時：2012 年 10 月 20 日 (土) 14：00

会場：神奈川区民文化センターかなつくホール

出演：細川裕美子 (23 期 Pf)

曲目：モーツァルト：ロンド イ短調 KV.511

ショパン：幻想即興曲、バラード 1 番、子守歌

丹歌、英雄ボロネーズ

シューマン：クライスレリアーナ op.16

♪蜂谷葉子・大岡真紀子ピアノデュオの魅力 vol.5、vol.6

「白と黒で織りなすファンタジー」

日時：① 2012 年 10 月 14 日 (日) 15：00

② 2012 年 11 月 7 日 (水) 19：00

会場：①スタンウェイ・サロン東京松尾ホール

②兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

出演：蜂谷葉子 (29 期 Pf) 大岡真紀子 (29 期 Pf)

曲目：ドビュッシー：白と黒で

ラフマニノフ：組曲第 1 番作品 5 “ 幻想 ”

シューベルト：幻想曲 他



♪新進演奏家育成プロジェクトリサイタルシリーズ OSAKA7

大瀨雅子ピアノリサイタル

日時：2012 年 10 月 19 日 (金) 19：00

会場：いずみホール

出演：大瀨雅子 (49 期 Pf)

曲目：リスト：バラード第 2 番

メンデルスゾーン：無言歌集 op.19-1 「甘い思い出」

op.19-3 「狩りの歌」

ベートーヴェン：ピアノソナタ第 31 番 変イ長調 op.110

シューマン：謝肉祭 op.9

♪響 Hibiki Piano Duo

日時：2012 年 11 月 10 日 (土) 18:00

会場：兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

出演：船橋美穂 (25 期 Pf) 雪原典子 (25 期 Pf)

曲目：シューマン：アンダンテと変奏 Op.46

サン・サーンス：エティエンヌ・マルセル (ドビュッシー編曲)

アルチュニアン&パバジャニアン：アルメニア狂詩曲

他

♪サロンコンサート

日時：2012 年 11 月 18 日 (日) 15:00

会場：モーツァルトサロン

出演：藤 美千代 (43 期 Vo) 他

曲目：L.Bernstein:「I Hate Music ！」 (「音楽なんて大嫌い」)

♪ウィリアム・ブランクル&石井玲子

チェロとピアノのデュオ・リサイタル ～フランス音楽の夕べ～

日時：2012 年 11 月 22 日 (木) 19：00

会場：だいしホール

出演：ウィリアム・ブランクル (Vc) 石井玲子 (院 7 期 Pf)

曲目：ドビュッシー：チェロとピアノのためのソナタ ニ短調

フランク：チェロとピアノのためのソナタ イ短調

フォーレ：エレジー op.24

ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ 他

♪ダブルリード&ピアノの饗宴 ～プーランクはお好き？～

日時：2012 年 11 月 23 日 (金) 14：30

会場：世良美術館

出演：宮本克江 (33 期 Ob) 武田佳美 (34 期 Pf) 他

曲目：パッヘルベル：カノン

モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」より

‘ 恋とはどんなものかしら ’

プーランク：オーボエソナタ 他

編集後記

朝夕急に冷え込むようになりました。皆様いかがお過ごしでしょうか？私事ではありますが、今年の夏にフランスにレッスンを受けに行って参りました。卒業して、仕事を始めると自分だけの練習時間を確保することがこんなにも大変なものかと、身にしみて感じた私にとって久々の学生に戻ったような日々でした。そして、人生最大のモチキ（黒人の方々から）がやってきた夏でもありました。色々な意味で刺激的な夏でした。話がどんどん脱線してしまいましたが、毎回会員だよりを読んでいると、大先輩達からはもちろんのこと世代に近い方からもとても素晴らしい刺激をもらえます。さぁ！私もがんばらなければ！！（S）

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます。

H23 年 11 月 友田美智子さま（22 期フルート）

H24 年 3 月 玉井勻さま（1 期作曲）

H24 年 4 月 辻輝子さま（5 期ピアノ）

H24 年 4 月 櫻井武雄さま（特別会員元本学助教授指揮）

H24 年 7 月 伊吹新一さま（2 期指揮）

H24 年 8 月には、上山春平京都芸大元学長が逝去されました。

次号で追悼記事を掲載します。

真声会

京都市立芸術大学音楽学部同窓会
Kyoto City University of Arts Alumni Association

発行所

真声会 京都市立芸術大学音楽学部内
〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13 番地の 6
TEL(075)334-2222 FAX(075)334-2345
同窓会事務局 TEL(080)6185-4494
e-mail : shinsei@kcua.ac.jp
<http://www.shinseikai-kcua.net/>